

絆 碧 沖 縄

第 66 号

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173 (代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス：o.fukusi@okinawa-j.jp

ホームページ：http://www.okinawa-j.jp/



のびのび音楽祭…法人内で療育音楽活動に取り組む施設が、日頃の練習の成果を発表する場として、毎年開催しています。

第11回のびのび音楽祭



養護・特別養護老人ホーム

具志川厚生園

介護員

よしま 義間 道幸
みちゆき

さわやかな秋風のもと11月19日、沖縄療育園において第11回のびのび音楽祭が開催されました。

今回から、地域交流の一環で沖縄療育園と交流のある「あずま保育園」を招待し、園児による和太鼓の演奏。また、理事長、各施設長が票を投じ、優勝を競い合う音楽祭となりました。

各施設とも、おそろいのチーム衣装で、日頃から取り組んできた曲に合わせた楽器演奏と歌声で、のびのびと明るく発表され、優勝旗を持ち帰る意気込みが感じられました。

待ちに待った結果発表では、練習の成果を出し切り満足した方、優勝を逃し思わずため息を漏らす方等、歓喜と落胆が交差する中、演奏で会場を一つにした「いしみなね救護園」が初代王者に輝きました。優勝旗を手に皆、とても良い表情でした。今後も多くの交流を深め、発展するのびのび音楽祭に乞うご期待ください。

永年勤続表彰を受けて
第48回全国社会福祉事業団大会



障害者支援施設

北嶺学園
介護員 阿波連 園江

第48回全国社会福祉事業団大会が10月16日から2日間、滋賀県の天津プリンスホテルにて開催されました。1日目は永年勤続者、実践報告・実務研究論文の表彰、基調講演、記念講演、映画上映が行われ、2日目は分科会に分かれて大会が行われました。九州・沖縄ブロック永年勤続表彰者代表として参加しました。

社会福祉事業団で仕事を始めて早や20年が経った事に私自身驚きを感じています。思い起こせば具志川厚生園、沖縄療育園、いしみね救護園、現在の北嶺学園、20年の間には仕事・家庭・育児と公私共に色々な事がありました。その中で仕事を続けてこられたのも職場の上司をはじめとする周囲の方々のご指導・ご協力があったのできた事だと感謝しております。



今回このような場で表彰を受ける事が出来たことを今後の励みにして心新たにこれから頑張っていくと決意しております。

全国社会福祉事業団協議会
九州ブロック研修会



養護・特別養護老人ホーム
宮古厚生園
生活相談員 若林 宏明

10月1日から2日間、北九州市で全国社会福祉事業団協議会九州ブロック職員研修会へ参加しました。当施設は、高齢者支援について実践報告を行いました。報告内容は「個別排泄ケアの質の向上」と題して、他職種連携による個別排泄ケアに向けての取り組みを発表しました。宮平主任の落ち着いた発表もあり、コメントーターより「初心を思い出す素晴らしい取り組み」とお誉めの言葉をいただきました。また「法的視点からみたリスクマネジメント」という基調研修があり、施設で起こる介護事故には、民事・刑事・行政責任の法的責任が伴うリスクがあるという重い内容でしたが、介護現場のリスクと介護記録の重要性を再確認できました。研修会終了後の意見交換会では、北九州市における社会福祉事業団の役割や、排泄ケアに対する問題等を他施設の職員と話す事ができました。排泄ケアに限らず、個別ケアを実践していく上で、多職種の連携は重要であることを強く感じる事ができ、とても有意義な研修でした。

第2回 合同排泄委員会

9月16日、沖縄県総合福祉センターにて、当法人各施設の排泄ケアに関する取り組み成果と課題について情報を共有し、今後の排泄ケアの向上につなげる事を目的に「第2回合同排泄委員会」を開催しました。参加した各職種の排泄委員の声をお届けします。



養護・特別養護老人ホーム
宮古厚生園
看護師 佐久田 智代

今回、合同排泄委員会に参加し、各施設が前年度の課題に一生懸命取り組んだことが分かりました。それと同時に本園は今後の課題として、オムツかぶれやむれが原因と思われる皮膚剥離等のスキントラブルが多いことに気づくことができました。現在使用しているオムツを取り入れ5年が経過し、更に利用者に質の良いサービスを提供するため、また職員のスキルアップを図る意味でも最新のオムツに関連する情報があればより充実したケアに結びつくと感じました。

研修を終え当園の排泄委員会において、再発しやすいスキントラブルのある利用者ケアの検討を行い泡洗浄を取り入れ実践しています。今後も、他職種と連携を図り質の高い利用者ケアの向上に努めていきたいと思えます。



養護・特別養護老人ホーム
具志川厚生園
管理栄養士 浜田 幸子

合同排泄委員会の中で、課題の一つとして「便秘と下痢」が取り上げられました。排泄は水分・食事摂取と密接な関係があり、便秘や下痢の種類によって食事療法が異なるため、栄養士がどのように介入していくか、アセスメントに必要な情報収集とそれを正しく分析し評価することの重要性をグループワークで再認識することができました。



養護・特別養護老人ホーム
八重山厚生園
介護員 宮城 寿伸

本会議のグループ討議では、実践的な排泄サポートについて検討を行いました。アセスメントシートに記載されている利用者の疾病に対する水分量や運動量、薬効や副作用を考慮したアプローチ方法を検討する等、各職種の視点からの科学的な対応策が検討できたと思えます。当園でも、排泄向上委員会でも職種連携したアセスメントを実施しているが、全職種が揃う事が少ない為、各職種の視点を取り入れられなくアセスメントが少し弱いと思われる。今回の経験を通して多職種連携の大切さを再認識する事が出来ました。今後はその経験を参加できなかった職員に伝え、多職種連携が取れる体制作りを行い、利用者支援に努めていきたいです。



救護施設及び福祉保健所・福祉事務所連絡会議



救護施設
よみたん救護園
生活指導員 町田 宗広

10月30日、読谷村社会福祉協議会に於いて、救護施設及び福祉保健所・福祉事務所を抱えている諸問題について、討議・情報交換を行うことにより利用者サービスの向上に寄与すると共に、関係機関の相互理解と業務の円滑化を図る事を目的として、連絡会議が開催されました。

県子ども生活福祉部福祉政策課をはじめ離島を含む16の措置機関と2救護施設を併せて合計48名の参加となり、連絡会議終了後は改築中で移設間近のよみたん救護園建物の見学会も行われました。

討議事項は、①救護施設の困窮者支援の取り組みについて、②成年後見人制度の活用について、③利用者の救急対応時、病院側から延命処置の対応について問われるが園として、の対応はどうすべきか・・・等々。急な討議事項もありましたが、福祉事務所側から助言を頂く事項、福祉対策課が後日回答する事項がありました。

最後に、制度の狭間にある問題を抱える利用者が福祉制度の利用を希望しても、市町村が対応できない状況と、介護保険適用除外施設である事から介護保険施設への移行支援に不利益が発生している状況等があり、改めて制度を利用する際の課題を感じる機会となりました。

施設ケア会議



児童養護施設
漲水学園
家庭支援専門員 宇座 正市

9月2日から2日間、今年度第1回施設ケア会議が当園で開催されました。

当会議は、施設と中央児童相談所・コザ児童相談所が、入所措置中の児童及びその保護者等への効果的な援助内容を検討することを目的に年2回開催されています。

会議では、施設が個別支援計画票に沿った児童支援の実施状況について報告し、継続及び追加支援事項、現在抱える課題への取り組み等、個別支援の充実に向け活発な意見交換を行いました。追加や見直した支援事項については、新たに個別支援計画に反映させていきます。

会議をとおして、それぞれの児童への適切な生活支援や児童の意思を尊重し自己決定力を高める支援方法、児童の行動観察記録の充実、児童の意思を尊重した進路指導、家族との連携協力体制の構築、家庭支援専門員・個別対応職員・心理士等専門職員・職員との連携のあり方等、多岐にわたって意見交換を行うことができました。

今後も児童相談所や家族と連携しながら、児童と職員が信頼関係を築き共に成長して行きたいと思えます。

うるま市介護支援専門員連絡会



具志川厚生園
居宅介護支援事業所
介護支援専門員 名護 美智代

数々の出会いを大切にしながら、日々のケアマネジャー業務に努めております。今回は、うるま市介護支援専門員連絡会の内容について、お伝えしたいと思います。

うるま市介護支援専門員連絡会は総会・定例会・幹事会・介護保険関係者交流会・うるま市ケアマネジメント活動支援事業から成り立ち、年間で計12回開催されます。定例会は、介護支援専門員としての知識・技術向上を目的とし、幹事会は、連絡会が実施する研修会及び各種活動について企画・立案する事を目的としています。マネジメント活動支援事業は、地域包括支援センターが主催となり、連携した基盤形成と連絡会会員の知識、技術向上を目的としています。先日開催された関係職員交流会では、二百人以上の関係者が集い親睦を深め、情報共有や相互理解を深める事ができました。

今後もより一層、地域・医療・福祉・介護サービスのネットワークが構築していける様、頑張っていきたいと思えます。

出納員研修会



養護・特別養護老人ホーム
八重山厚生園
出納員 上原 正也

7月18日事務局会議室において第1回出納員研修会が開催されました。平成25年度に新会計基準へ移行してから初めての研修となりました。今回の研修では、複式簿記の基礎的な部分と会計基準の主な変更点、決算処理の重要なポイントに至るまで事務局担当者より説明があり、最後に質疑応答が行われました。

新会計基準に移行して1年が経過しましたが、これまで理解不足であった「内部取引消去」と「国庫補助金等特別積立金取崩額」についても学習する良い機会となりました。今回の研修を通して日常の業務に必要な知識の習得だけでなく決算に向けての心構えができました。



法人内の各職種連絡会の様子（職員の業務能力の向上と、利用者の生活及び質の改善を図る事を目的に各職種ごとに連絡会を開催しています。）

サービス管理責任者・相談支援専門員連絡会



医療型障害児入所施設
沖繩療育園

多和田 綾子

平成18年度に施行された障害者自立支援法で、新たにサービス管理責任者や相談支援専門員の配置が規定され、今年、専門性の向上を図ることを目的とし、連絡会を開催する運びとなりました。連絡会では、個別支援計画書の取り組み、サービス等利用計画や相談支援事業所開設にあつたの進捗状況、行政や地域との連携について各施設から報告がなされ、業務の内容や情報を共有することができました。その中でも、先進的な事業所を見学することにより、サービスの管理責任者や相談支援専門員の担うべき役割、スキルや視点について考える機会となりました。今



後も連絡会において、サービス管理責任者と相談支援専門員の魅力ある融合を目指し、質の高いサービスや相談支援を提供できるように取り組んでいきたいと思ひます。

介護員連絡会



障害者支援施設
都屋の里

介護員 又吉 篤志

今年度第2回介護員連絡会では、各施設の上半期各施設の誤薬事故の状況報告、与薬実演が行われ各施設とも与薬マニュアル通り実施すれば大半の誤薬事故は防げる事を再確認した。多忙、焦りが誤薬事故を引き起こす要因にもなるが、誤薬事故は直接、生命に関わる事を再確認し与薬マニュアル実施の徹底を周知した。情報交換会では、各施設さまざまな課題があり、他の施設から情報を得る事ができた。



講習においては、都屋の里理学療法士によるポジショニング、集団リハビリやリラクゼーションの方法、介助者の腰痛予防のボディメカニクス等実技を交えての講習で、初心を振り返ることが出来た。今後も、法人全体で情報を共有しさまざまな課題等に協力していく事を確認した。

居宅サービス職員連絡会



宮古厚生園
訪問介護事業所

サービス提供責任者 内原 美和子

年2回（6月、11月）開催される居宅サービス連絡会は各事業所の現状及び課題について情報交換を行い、利用者サービスの質の向上を図ることを目的としています。

居宅・訪問・通所の各事業所に分かれ毎回議題を提出して、利用者に必要な支援やサービス提供に向けて検討します。例えば、訪問介護事業所では、実施記録の書き方や新規利用者の開拓、今後の事業所の取り組みについてなど、内容は多岐にわたっています。また、地域の特性を活かしたサービスを展開している様子も報告され、日頃の業務の中では得られない情報もあり、和やかな雰囲気の中で毎回充実した連絡会となっております。



今後とも、連絡会を通して職員間の情報の共有化を図り、互いの長所をくみ取りながらよりよい利用者支援に活かしていきたいと考えています。

看護師連絡会



救護施設
よみたん救護園

看護師 富山 未美

10月10日、沖縄県総合福祉センターに於いて、事務局主催による第1回看護師連絡会が行われました。

会前半は、沖縄県看護実務者研修報告会として、介護施設（名護・宮古・八重山厚生園）看護師による報告がありました。後半は、「看護業務について」、介護施設と障害者施設の2グループに分かれて会議を行い、各施設の事務分掌に記載のない業務や事務分掌に記載のない実務の中から、看護師でしか行えない業務を確認していきました。施設によって異なる業務が多々あることも会議を通して知りました。



また、看護師不在の時間帯は、特に介護職員との連携が重要となることも、参加者が同様に感じた会議となりました。久々に開催される看護師連絡会は、情報交換の時間も限られており、今後定期的に開催されることを願ひます。

地域でユイマール(支援合い)

芋掘り収穫



救護施設

いしみな救護園

介護員

上地

博輝

晴天にも恵まれ、10月7日にサツマイモの収穫を行いました。今年もみどり保育園の園児を招き、一緒に芋掘りを楽しみました。

植付けから5か月経つての収穫で小さな芋、大きな芋、二股に分かれた人の形をした変わった芋を見て、みどり保育園の園児や利用者は、驚いていました。泥んこになりながら一生懸命、掘っている風景を見て、楽しくなりました。

みんなで収穫した芋は、ふかしイモにして3時のオヤツに食べました。利用者にも味の感想を聞くと美味しかったと好評でした。

無農薬で今年は虫が付かず形が良



くて大きく成長したサツマイモ、紅イモを収穫する事ができて、利用者も喜んでいました。また、大きな芋を作れた

いとの感想がありました。本音は美味しい芋が食べたいでしょう。充実した芋掘り収穫でした。

大宮幼稚園交流会



養護・特別養護老人ホーム

名護厚生園

介護員

仲地

夏海

11月6日、地域の子ども達とのふれ合いを目的とした交流会に大宮幼稚園のたくさんさんの園児が名護厚生園へ遊びに来てくれました。

交流会は、園児の元気いっぱいの挨拶から始まり、屈託ない笑顔で披露されたダンスや手話ソング。サブライズでいただいた手作りのクリスマスツリーやクリスマスリース。園児達が、おじいちゃん、おばあちゃんのことを思いながら一生懸命作ってくれたと考えるだけですごく優しい気持ちになりました。

ダンスや手話ソ

グの後、おじいちゃん、おばあちゃん一人ひとりの体に触れたり握手をしたりと楽しそうにしている子ども達の中、しわしわの顔に驚いたの



か、泣き出す子もいました。お年寄りと接する事の少ない子ども達にも、良い経験になったのではないのでしょうか。



園児との交流で名護厚生園の利用者も大宮幼稚園の園児にとってもお互いに刺激のある時間を過ごせたと思います。

これからも、もつと多くの地域の方々と交流を深めていきたいと思いました。

宮古島市生活支援ホームヘルプ事業について

ヘルプ事業について*

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

副園長

平良

吉昭

平成26年7月に宮古島市と「宮古島市生活支援ホームヘルプ事業」の業務委託契約を締結しました。この事業は宮古島市が主体となり、生活支援が必要な一人暮らしの高齢者又は高齢者世帯に対し、生活ホームヘルプ事業を行うことで、日常生活の不安や身体的負担を軽減し、自立に向けた生活支援をする目的としています。例えば「近々退院するが、一

人暮らしなのでしばらくの間家事をするのが大変」、「家族が1ヵ月ほど入院することになり買い物や通院が難しい」など、介護保険を利用しなくても、ちよつとした生活支援があれば生活できる方を対象に、3ヵ月の期間限定で自立に向けた生活支援を行う事業です。支援計画は地域包括支援センターが立案して、支援については委託されたホームヘルプ事業所のヘルパーが行う事となります。



本施設では、地域の高齢者が「できる限り自宅で自分らしい暮らしを継続したい」という思いを支援するために、行政とタイアップして地域密着・地域貢献に根差した事業を積極的に受け入れてまいります。

【支援内容】

- ①掃除
- ②買い物付き添い
- ③洗濯
- ④病院付き添い
- ⑤薬の受け取り
- ⑥調理
- ⑦ゴミ出し
- ⑧その他自立支援に必要なサービス等

相談支援事業所

ほくれい開設



障害者支援施設
北嶺学園

管理者 金城 茂

本年6月、園内に「相談支援事業

所ほくれい」を開設しました。業務は、障害のある方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう配慮し、関係機関と連携の下、適切なサービスが安心して受けられるようお手伝いすることです。常駐のスタッフ2名と所長（兼務）とで体制を組んでいます。相談支援事業を取り巻く状況として、総合支援法改正により平成27年3月までに利用計画書等を市町村提出とされましたが、事業所数の不足のため年初めにかけて現場は混乱することが予想されています。その様な環境の中「ほくれい」は、ご本人ご家族の思いがいっぱい詰まった様々なニーズを傾聴し、社会福祉事業団事業所ならではの心の



通った支援、気持ちに寄り添い、これからの生活に希望の持てる支援を行っています。どうぞ宜しくお願い致します。

相談支援事業所ほくれい 「ご利用者・ご家族の声」

北嶺学園 入所利用者 様の声

（他事業所 生活介護利用）

ほくれいでおんがくしたり、むすびおりをしたり、さぎようもがんばりたい。はたらくことができてうれしかったです。（作業所で）おしえてもらってどんなにできるようになった。（作業所の）せんせいからきゅうりようもらってうれしかった。やすまないでしごとがんばりたい。ずっとはたらきたい。

北嶺学園 入所利用者家族 様の声

本人の働きたいという思いがあり、作業所を利用することができてよかったです。本人から、作業所の様子を聞くと、嬉しそうに話しているの、本当によかったです。本人は辞めずにずっと作業所で働くと話しています。北嶺学園も、作業所も一生懸命やっているの家族も喜んでいきます。

在宅利用者 様の声

（就労継続支援A型利用）

ほくれいを利用し、障害サービスの就労ができるようになってよかったです。最高です。仕事はきつけれど、楽しくやっています。初めは緊張していましたが、他の利用者と友達になり、みんなが教えてくれたりフォローしてくれる。今後は、仕事を続けながら、一般就労にむけて、自分が夢中になることを見つけてがんばりたい。ありがとうございます。

施設長 リレーエッセイ



思いにまかせて

障害者支援施設
都屋の里

園長 仲宗根 昌栄

私は、釣りが好きで小学校5年生の頃から近くの海で磯釣りを楽しんでいました。

あの頃は、チンブクという竹ざおを使い、餌はアンマン（ヤドカリ）を使用し、潮が退いた珊瑚礁の干潟で胸まで浸かって釣りをしました。珊瑚の陰にいるような魚が住みついていたので、釣りに行くたびに大魚でした。魚を家に持ち帰ると、それが夕食の主役となり、家族の喜ぶ顔を見ると誇らしく思ったものです。

海は枝珊瑚やテーブル珊瑚が生い茂っており、岸の近くまで魚が押し寄せていました。思いをはせると、あの頃の海の自然の豊かさが懐かしく思い浮かびます。その後は、荒磯釣り、沖釣りを楽しんでいました。結婚し子供ができると、忙しさに追われ遠のいてしまいました。ただ、妻言わく、「あなたの釣りが好きのおかげで、新鮮な魚のサバキができるようになった。美味しい魚の味がわかった」と。話は変わりますが、読谷村役場に就職したの頃、琉球古典音楽に勤んでいる先輩に誘われて古典音楽の三味線を習うことになりました。もともと、琉球民謡が好



去年は、参加しているソフトボールチームが県大会で準優勝し、西日本大会（山口県）に沖縄県代表として参加しました。これからも、自分の心の思うままにチャレンジし楽しい人生を送りたいものです。

職員の語らい

お弁当の不思議な魅力

障害者支援施設 あけぼの学園

管理栄養士 奥平 優佳

おくひら ゆか



蓋を開ける瞬間、わくわくして楽しい気分になるのがお弁当の不思議な魅力です。漲水学園・あけぼの学園には、子どもたちが入所しています。そのためお弁当を作る機会がたくさんあります。施設では、時間や衛生上の理由によりお弁当作りが制限されますが、出来るだけ子ども達の意見をとりいれるよう工夫しています。子ども達の「美味しかった〜!」「可愛かった〜!」「今度は〇〇作って〜!」



とうれしい言葉を聞くと、次はどんなお弁当を作ってみようかな?と、日々お弁当作りを頑張っています。

日々の楽しみ

救護施設

いしみね救護園

出納員 金城 涼平

きんじょうりょうへい



4月からいしみね救護園の出納職員として勤務し、施設内で農作物を育て、収穫する喜びを味わうことができ、私自身も自宅でも何か栽培したいという気持ちになりました。9月中旬からミニトマト、さやえんどう等の苗を購入し、プランターでの栽培を行っています。野菜を育てるのは

小学生の時祖母と一緒に過ごした以来、懐かしい感じもしました。水やりをしながら、日々の成長を見るのがとても楽しい毎日です。今後成長し、実った野菜を収穫し、家族と共に食べるのが待ち遠しいです。



釣り日誌

障害者支援施設 都屋の里

サービス管理責任者 宮城 尚

みやぎ なお



今年、職場の仲間と釣りをメインとした釣りにクラブを結成しました。思い思いの釣り座へ出かけ、週末は釣果報告会。これが天国と地獄で坊主では容赦なく叱咤、叱咤の雨嵐。爆釣なら皆の羨む顔を見ながら優越感に浸ります。



中でも一番の楽しみは月1回のケラマ諸島釣行です。世界遺産の中で釣りが出来る幸せを感じながら心身共に浄化されるこの時間が自分にとって最高の一時です。同じく釣りに興味のある方、是非クラブへの参加加入お待ちしております。



QCサークル活動紹介

養護・特別養護老人ホーム

宮古厚生園

出納員 下里 亮

しもぞと りょう



宮古厚生園では、QCサークル活動として経費節減を目標に『節電・節水』に取り組んでいます。職場全体で取り組むために、各部署から委員を選定し、9名で毎月1回会議を行っています。過去3年間の電気・水道使用量をグラフ化し、

毎月最も低い値を目標にし、毎月目標達成できたか、できなかった要因は何か等を委員で話し合っています。会議の内容は毎月職務会で報告し、各部署に節電・節水掲示板を掲示し、今月の取り組み目標や、毎月の使用量を全職員に周知して節電・節水の意識付けを行っています。



その他にも、エアコンの設定温度、電気の消し忘れがないか見回りチェック、節水用シャワーヘッドへの取替え、漏水箇所

検、修繕等を行っています。

また、掲示物には節電・節水委員会で作成したキャラクターを使用する事で、目を引くような工夫も取り入れていきます。今年度、水道使用量は4月から連続で目標達成できているので、年間を通して目標達成できるように引き続き職場全体で取り組んでいきます。



節電部水キャラクター 1500

赤い羽根共同募金助成

車輦ありがとうございました

婦人保護施設



施設だより

ピクニック

医療型障害児入所施設 沖縄療育園
児童指導員 喜屋武 本直

利用者の皆様の安全面への配慮や、個々に合った場所が選定できると考え、行事の持ち方を変更する事になりました。平成26年4月1日より、少人数制にし、1年を通して遠足やアイススケートなどの行事をピクニックという方法で開催しております。



4月から11月の期間にピオスの丘・プラネタリウム・プール・デパート等に出掛けました。今年4月から入職して初めてピクニックを体験し、利用者と一緒に楽しむながら思い出を作ることができ、重要な行事だと強く感じています。

利用者のご家族の方がピクニックを通して、より一層充実して満足できるよう今後も職員一同協力しながら、頑張りたいと思います。

日中活動は身体を鍛えるぞ！

障害者支援施設 あけぼの学園
介護員 砂川 直美

20代から70代と年齢層の幅広い生活介護を利用する方々。年齢に関係なく気持ちの元気な方が多く、日々、楽しく過ごしております。天気の良い日は、グラウンドでウォーキング、ボール遊び・グラウンドゴルフを楽しんでいます。最近では、施設間交流会で開催されるキックベースボール大会に向け練習と体力作りに励んでいます。また室内作業では手芸、ビーズ通し、塗り絵などの創作活動に取り組んでいます。手芸作品では、得意分野に分かれて布巾縫い、飾りボタン作り、編み物等に真剣に取り組む様子が見られます。自分で作った作品が出来上がると嬉しそうに職員に見せに来る姿は微笑ましいです。



合同誕生会

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園
介護員 古見 嘉浩

今年度初めの余暇レク委員会、誕生会の運営を各棟持ち回りで責任を持って行う事が決まり、担当する棟は内容の計画やBGMの準備、司会進行など、各棟の特色を生かし、その月の季節に合った余興やゲームなどを考えています。

例えば、5月には、鯉のぼりとハリーリーのゲーム、7月はミニ豊年祭で旗頭や獅子が登場し、大綱引きゲームで盛り上がり、8月はアンガマと一緒に手足を動かして踊ったり、養護、介護利用者共に好評で、いつも笑顔あふれる合同誕生会です。

また、担当した棟の職員も準備は大変だけど利用者の笑顔で、終わった後は、やっ

て良かったという充実感でいっぱい



次亜塩素酸精製水製造・販売

障害者支援施設 北嶺学園
介護員 長嶺 輝也

前年度に法人内各施設の空間除菌に効果がある噴霧器を導入しましたが、その噴霧器に使用する精製水の製造・本島内施設への販売を今年度より北嶺学園が担うこととなりました。販売当初は何をすればいいのかわからず園長と各施設へ挨拶回りをし、手探り状態ではじめました。作業に不慣れで迷惑をおかけすることもありましたが、配達時に各施設の職員や利用者へ声をかけていただくことで作業に参加している利用者にとって大きな励みになり、積極的に取り組むことができるようになっていきます。これから、風邪やインフルエンザが流行する時期となりますが、法人各施設の皆様の感染症防止対策に少しでも役立つことができれば幸いです。これからも北嶺の配達員（利用者）に励ましをどうぞよろしく！



利用者へ励ましをどうぞよろしく！